

楽しくエコドライブに取り組めるアプリ「日本縦断！エコトラベル」開発

広運協

9月から「第1回広運協エコドライブコンテスト」開催

広域運送事業協同組合(広運協、樋口恵一理事長)は20日、総会を開いた。エコドライブの普及と効果向上を楽しみながら取り組むことを目的とし、既存の「エコドライブ記録システム」のデータを利用したゲームアプリ「日本縦断！エコドライブ」を昨年度事業で開発。今年度は、エコドライブ記録システムとアプリを組み合わせた、組合主催のエコドライブコンテストの開催を予定する。

燃料の高止まりや高速道路料金制度の変更によるコスト増を念頭に、今年度の事業コンセプトとして「組合員のコスト削減を優先」を掲げ、燃料手数料を1枚あたり0・2円に、ETCカード手数料を1枚あたり762円に値下げ



「日本縦断！エコドライブ」は燃費を改善するほど先に進める
 リゲームができるもので、システム、アプリとも組合員の使用量は無料となっている。
 アプリはすぐろくのように日本を縦断していくゲームで、燃費を改善すればするほど先に進む。アプリ上で

「各地の名物・お土産」を受け取ったり、他の組合員とすれ違ってお土産を交換することもできる。こうしたツールを活用し、より一層エコドライブを促進するため組合主催のエコドライブコンテストの開催を予定している。

このほか経営支援事業では、年3回の「安全運転研修」、「ナスバネット車による適正診断」「安全メルマガ」を中心に内容の充実化を図る。「安全メルマガ」については、昨年度までに延べ415通の配信が行われ、今年5月末現在で265人が登録しているが、登録者数1000人を目指しキャンペーン実施する。

総会後の研修会では、東京都立墨東病院の薬師寺史厚内科部長(労働科学研究所協力研究員)が「トラックドライバーを守るか、カンパニーをどう守るか」をテーマに講演した。薬師寺氏は、ボートレーサーが点呼の際に血圧が高いと出場できないといった事例を紹介し、

し、首都・阪神高速道路の大口多頻度割引の組合員への還元率を7・5%にアップさせる。

経営支援事業では、燃料コストの削減や安全面でも効果の高いエコドライブを推進。国土交通省の低炭素型自動車交通推進事業で開発した、給油量と走行距離を記録するだけで燃費や燃費向上率、ランキングなどを算出する「エコドライブ記録システム」と「日本縦断！エコドライブアプリ」を活用していく。

「エコドライブ記録システム」では、月初に目標燃費、給油の都度、距離メーターと給油量を入力。燃費等のデータが計算され、燃費や燃費改善率、偏差値、自車ランキング、会社の燃費順位が分かる。これらのデータを使ってアプ

点呼については、健康起因の時事を減らすための「最後の砦」とし、「点呼時に片足立ちで目をつぶってもらう。酒が残っていたり、血圧が高いまたは低い、不整脈があるとふらつく」といった病気を見つけるアイデアも示した。

樋口理事長は「組合員数や車両数が増えている。皆さんの会社の経営があつての組合であり、経営に役立つ組合にして、便利に組合を使ってほしい」と挨拶。「ドライバーの高齢化が進み、運転中の重大事故の事例がトラックでもバスでもある。3〜5年先、ますますドライバーの高齢化が進む中で、どういう管理をしていくかを考えるために、今回の講演テーマを企画した」と話した。